

日米における障害がある人に対する認識の研究

ローラ・ケテリング

ハナ・リトル

カリフォルニア州立大学モンレーベイ校

要旨

私達が人を見る時、外見上は身体や精神に障害があるかどうかわからないときもある。障害は、身体構造（体の外部）にある顕著で明らかに目に見えるものに支障がある場合（例えばダウン症候群や脳性麻痺など）、または個人が心身機能（体の内部）に支障があると診断されている目に見えないもの（例えば失読症や糖尿病など）のいずれかにて説明する事ができる。アメリカと日本における上記の四つの疾患の有病率についての文献によると、アメリカの方が日本人より多い。また日本とアメリカでは障害者に対してのサポートや支援の仕方が異なっている。

この研究では日米の大学生の障害がある人に対する見解はどのようなものか、そして、日米の大学生は障害がある人が利用可能な設備や施設についてどの程度理解しているかについて追求した。63人の両国の大学生にアンケート調査を行った結果、日本人は精神疾患を障害とは考えていない大学生が多く、障害がある人が自分の障害について話すべきではないと考えている事がわかった。また、障害についての教育に関しては、学校教育を通して教育を受けているアメリカ人に対して、日本人は小学校の早い段階で教育を受けたが小学校以降、障害についての教育は受けていない傾向にあるようだ。さらに、日本人は障害がある生徒も通常学級で教育を受ける事が重要であると考えている一方で、アメリカ人は障害がある生徒は特別支援学級で障害がない生徒と分けて教育を受けた方が良いと考えている事がわかった。

はじめに

障害には外見から分かる場合もあるし、分からない場合もある。障害は、身体構造に明らかに支障があると分かる場合、例えばダウン症候群や脳性麻痺など、個人が心身機能（体の内部）に支障があり目に見えないもの、例えば失読症や糖尿病など、のいずれかにて説明する事ができる。アメリカと日本における上記の四つの疾患の有病率についての文献によると、アメリカの方が日本人より多い。また日本とアメリカでは障害者に対してのサポートや支援の仕方が異なっている。両国の大学生の障害者に対する認識をもっと深める必要がある。

1. 研究の重要性

私達がこの研究課題に興味をもった理由は日本に留学した時、留学生の為のカウンセリングがほとんど提供されていなかった事に驚いたからである。障害について自由に話すことができるセーフスペースが必要だと思った。また、障害に対する日米の大学生の認識がどのように違うのかをもっと知りたいと思ったからである。ハナには障害があり、障害がある家族も多い。CSUMBでは、障害があるアメリカ人の学生に対する支援が少ない。日本に留学した時、大学には障害者サポートセンターがなかった。また、この研究を通して、日米の大学にどのようなサポートがあるか調査してみたいからである。

2. 研究質問

1. 日米の大学生の障害がある人に対する見解はどのようなものか
2. 日米の大学生は障害がある人が利用可能な設備や施設についてどの程度理解しているか

3. 研究背景

3.1 障害とは何？

ADAによると「個人の多数の生活活動を相当に制限する身体的または精神的障害」(ADA AMENDMENTS ACT OF 2008, 2008)となっていて、障害は三つの方法で定義される。一つ目は、身体障害で、二つ目は知的障害、三つ目は精神障害である(障害者基本法:障害者施策—内閣府, 2004)。

3.2 見える障害（体の外部） vs. 見えない障害（体の内部）

障害には見える障害と見えない障害がある。見える障害は「肉眼で見えるだけで障害に気づかれる」(Invisible Vs. Visible Disabilities, 2018) 障害で、見えない障害は「外からは見えないが、人の動き、感覚、または活動を制限する障害で、身体的、精神的または神経学的な障害」(How do you define invisible disability?, 2017)のことを言う。

3.3 調査で述べられた障害の定義

調査で述べられた障害の定義は四つある。失読症とは、「学習障害の一種で、知的能力に特に異常がないにもかかわらず、文字の読み書きに著しい困難を抱える障害」(Dyslexia, 2017)である。そして、糖尿病とは「インスリンが十分に働かないために、血液中を流れるブドウ糖が増えてしまう病気」で、1型糖尿病は、膵臓からインスリンがほとんど出なくなるにより血糖値が高くなります。2型糖尿病は、インスリンが出にくくなったり、インスリンが効きにくくなったから血糖値が高くなる。(What is Diabetes?, 2016)、脳性麻痺とは「運動や姿勢に影響を与える運動を司る脳の一部分が損傷して筋肉を正常に動かすことができなくなる」(What is Cerebral Palsy?, 2019)と言う障害で、さらに、ダウン症とは「染色体異常により、体細胞の21番染色体が通常より1本多く存在し、身体的発達の遅延、特徴的な顔つき、軽度の知的障害が特徴である。」(What is Down Syndrome?, 2020)である。

3.4 調査で述べられた障害の統計的率

失読症、糖尿病、脳性麻痺、ダウン症候群に焦点をあててみると、日アメリカ人は日本人よりも障害に関する診断が多い(図1参照)。

	日本	アメリカ
失読症	総人口の5% (FAQ, 2020)	総人口の5~15% (Dyslexia: What Brain Research Reveals About Reading, 2004)
糖尿病	総人口の7.9% (IDF Western Pacific members, 2020)	総人口の10.5% (Statistics About Diabetes, 2018)
脳性麻痺	1000子供当たり2.27 (Toyokawa, S., Maeda, E. and Kobayashi, Y., 2017)	1000子供当たり3.1 (Christensen, D., Braun, K. V. N., Doernberg, N. S., Maenner, M. J., Ameson, C. L., Durkin, M. S., Yeargin-Allsopp, M., 2008)
ダウン症候群	455出生当たり1 (ダウン症児出生数は横ばい傾向, 2019)	700出生当たり1 (Down Syndrome Facts, 2020)

(図1：日米の障害の統計)

3.5 アメリカ大学の支援：ケーススタディ

ここで大学での障害者に対するサポート支援に関してて見てみる。カリフォルニア州立大学モンレーベイ校では障害がある人は様々な種類の支援を受けられる。CSUMBでは、障害の管理アドバイス、支援技術、教室用家具の代替、障害がある生徒のためにキャンパスについてのオリエンテーション、別の人ノートを取り、代替フォーマット、代替の試験がある。

筑波大学の支援は、ピア・チューター、定期試験における配慮の依頼、視覚障害がある人向けの点字オプションなどを大学が提供している(学修支援, 2020)。同志社大学の支援は、大学生が精神科医と精神保健相談ができる機会も提供されている(健康相談・精神保健相談・禁煙支援, 2020)。

4.0 研究方法

参加者は日本とアメリカの大学生63人でオンラインによるアンケート調査を行った。参加者は日本人の大学生31名のうち男子学生が12名、女子学生方19名である。

アメリカ人の大学生32名のうち男子学生が11名で女子学生が17名そして中性学生が4名である。

5.0 研究結果：研究質問 1

5.1 研究質問 1：日米の大学生の障害がある人に対する見解はどのようなものか。

この研究質問に対し、いくつかの質問をした。はじめの3つ質問は「下記の中で障害を持っている人を知っていますか。」、「あなたの周りで障害を持っている人はいますか。」、「下記の障害の中で知っているものはありますか。」という質問をした。

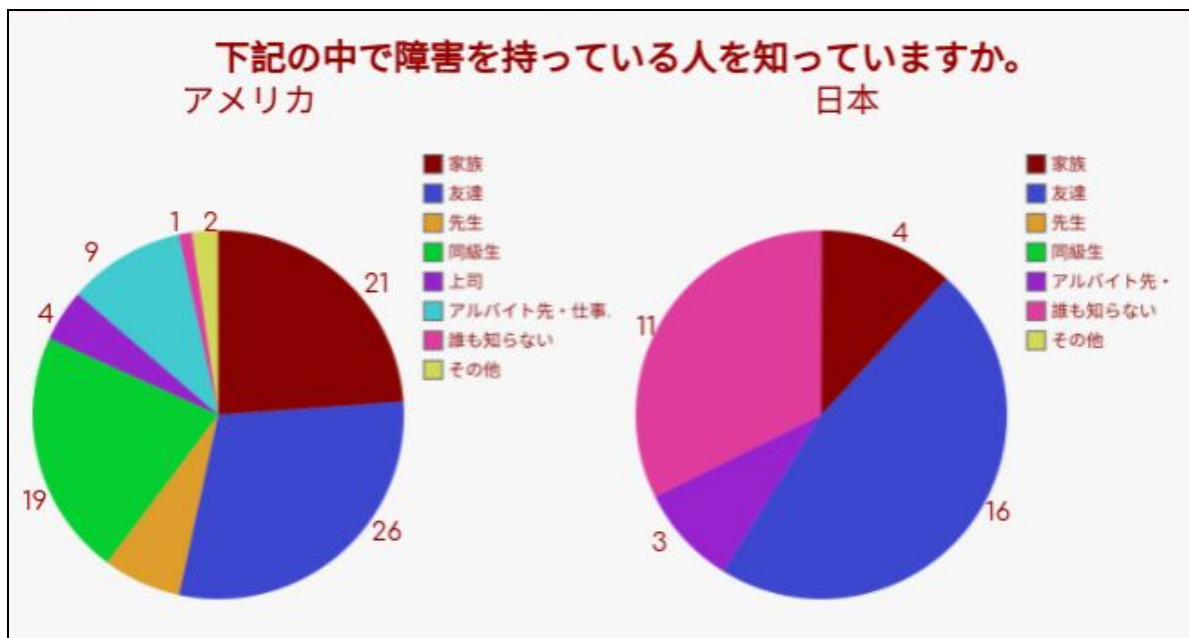


図 1：下記の中で障害を持っている人を知っていますか。

その結果、図 1 からわかるようにアメリカ人は障害がある家族・友達・同級生を知っていると回答した。日本人はほぼ 50% の人が障害がある友達を知っていたが、30% 人は誰でも知らないと答えた。

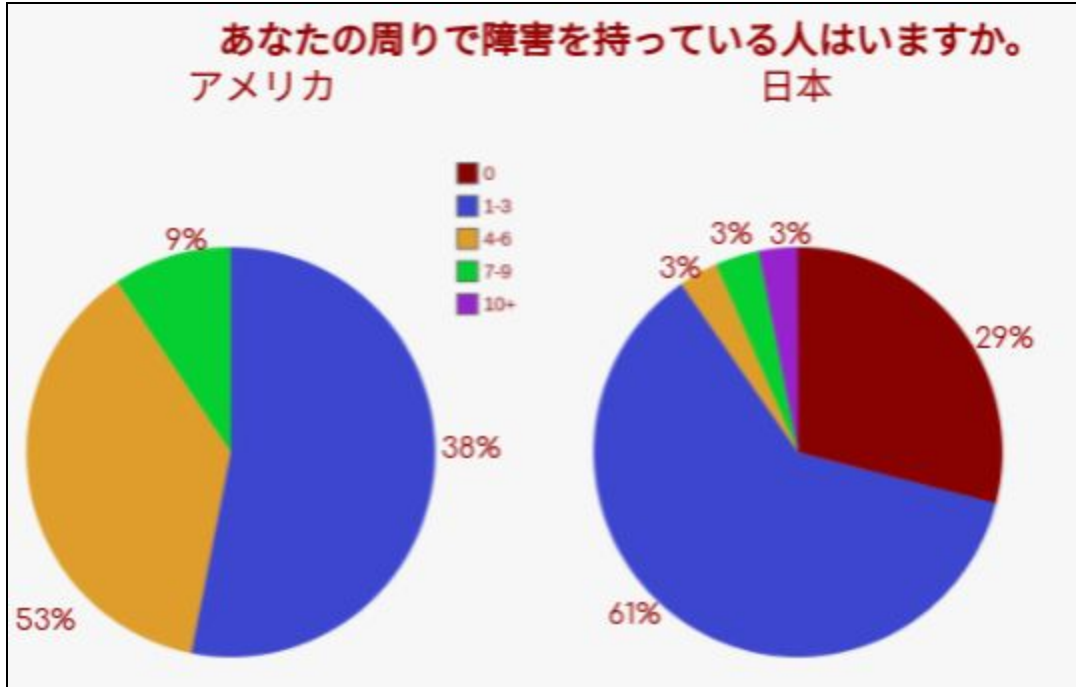


図2：あなたの周りで障害を持っている人はいますか。

あなたの周りで障害を持っている人はいるかどうかという質問には図2からもわかるように日本人は0人から3人知っていると言え、アメリカ人は1人から9人知っていると言えた。

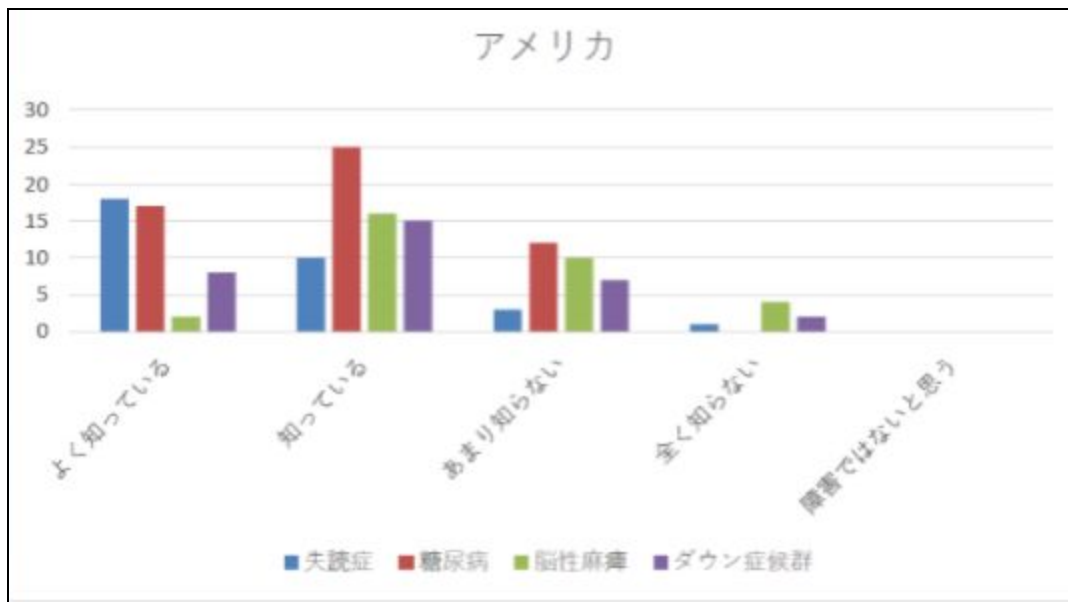


図3：下記の障害の中で知っているものはありますか。アメリカ。

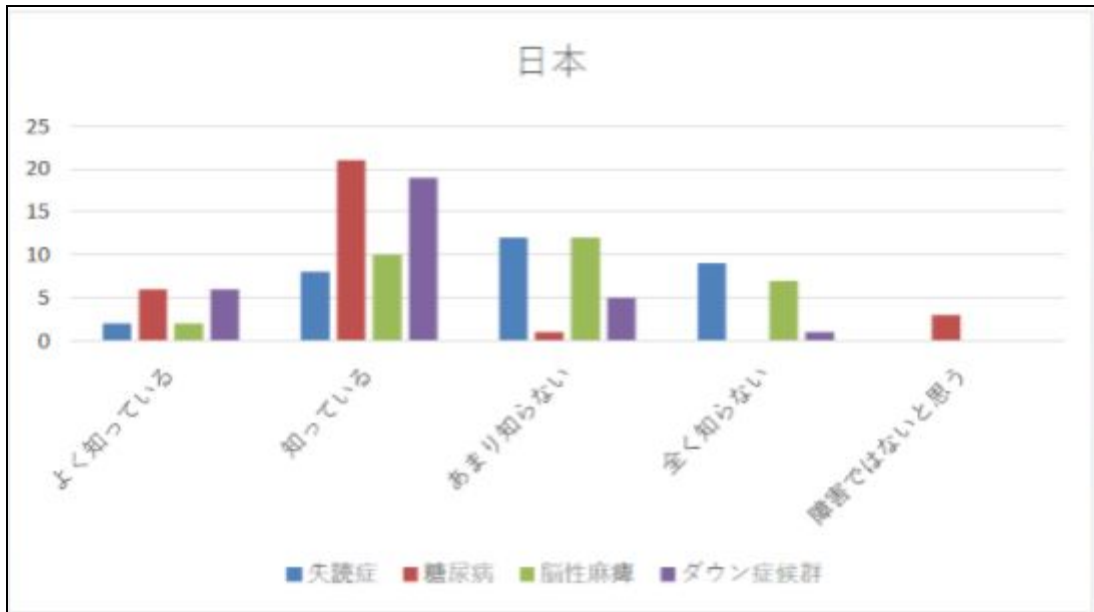


図4：下記の障害の中で知っているものはありますか。日本。

いくつかの障害を上げのそのなかから知っているものはあるか聞いたところ回答者は日本人は糖尿病が一番よく知っているが、失読症が一番全く知られていないようである（図3参照）。また、ほぼ10%の人は糖尿病は障害がないと思っていることも分かった。アメリカ人は糖尿病・失読症がをよく知っているが、脳性麻痺は全く知られていないようである。アメリカ人は日本人よりここにあげられている障害を知っていることが分かった（図4参照）。

次の障害がある人は必要がない限り自分の障害について話すべきではないかという質問をしたところ。

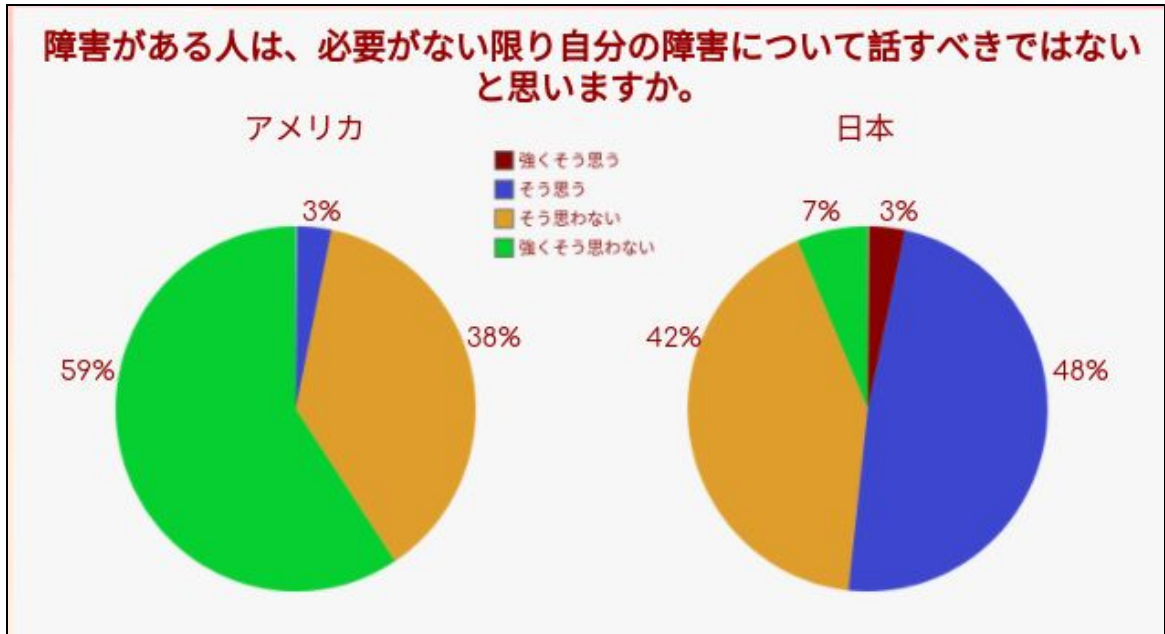


図5：障害がある人は、必要がない限り自分の障害について話すべきではないと思いますか。

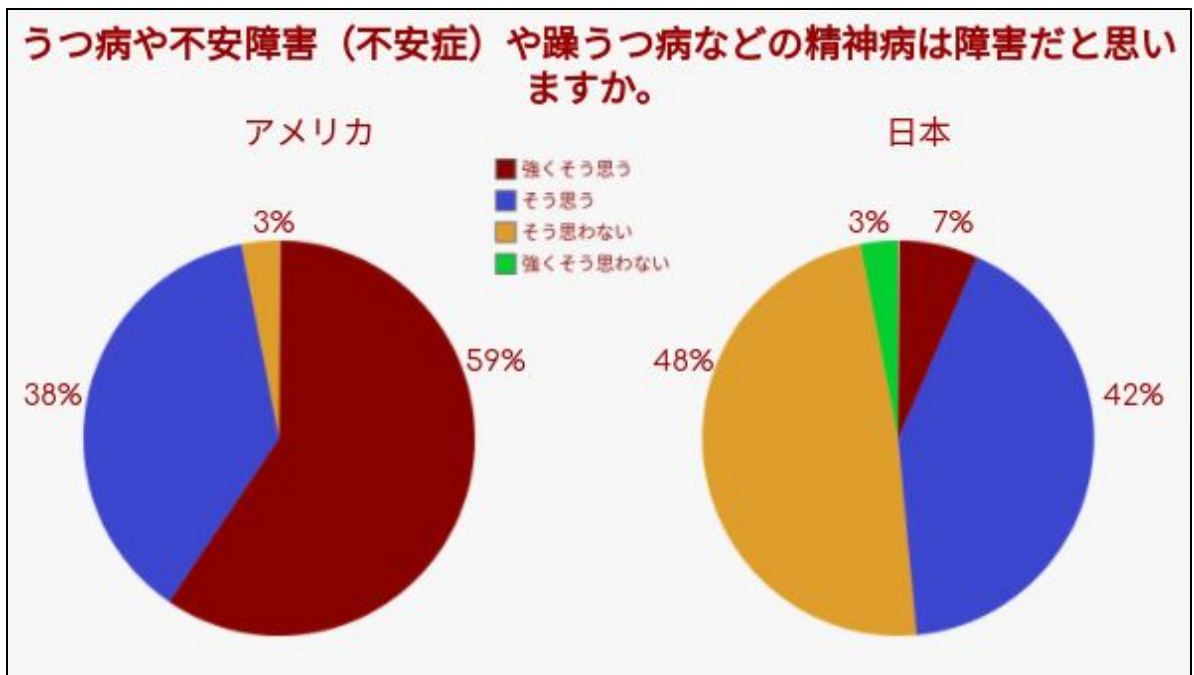


図6：うつ病や不安障害（不安症）や躁うつ病などの精神病は障害だと思いますか。

アメリカ人の答えと日本人の答えは異なり、日本人は障害について話してはいけないと思っていることがわかった（図5参照）。一方アメリカ人は精神病は障害だと思っていると答えが日本人の半分んはが「そう思わない」と答えた（図6参照）。

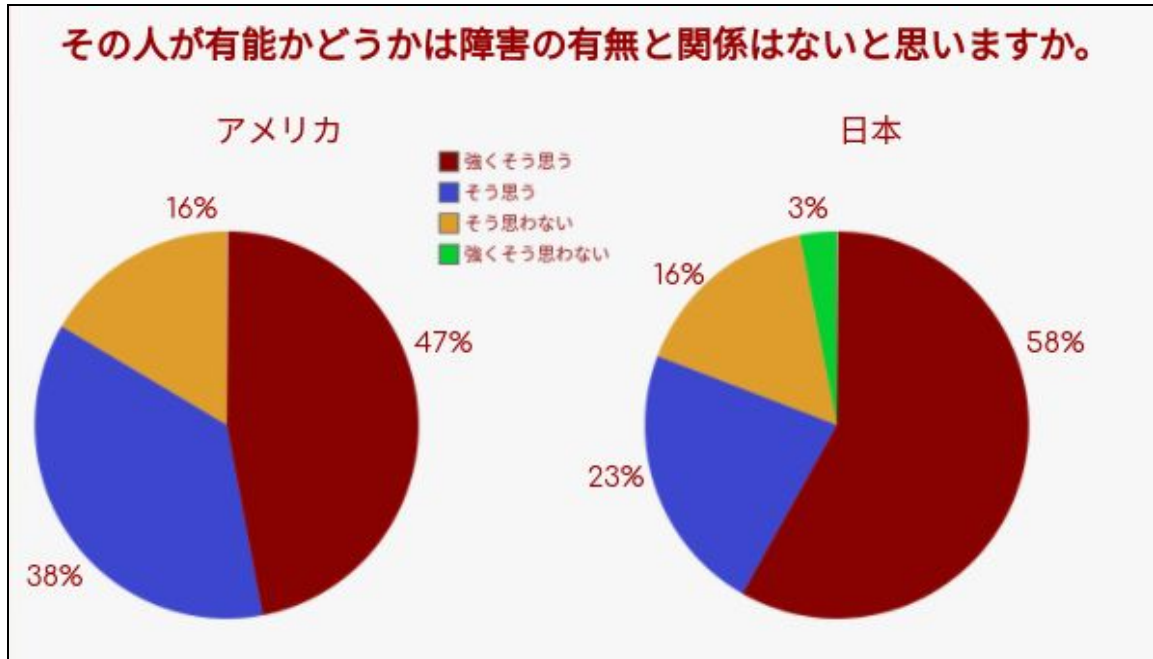


図7：その人が有能かどうかは障害の有無と関係はないと思いますか。

図7からわかるように両国ともほとんどの人はその人が有能かどうかは障害の有無と関係はないと思っている。

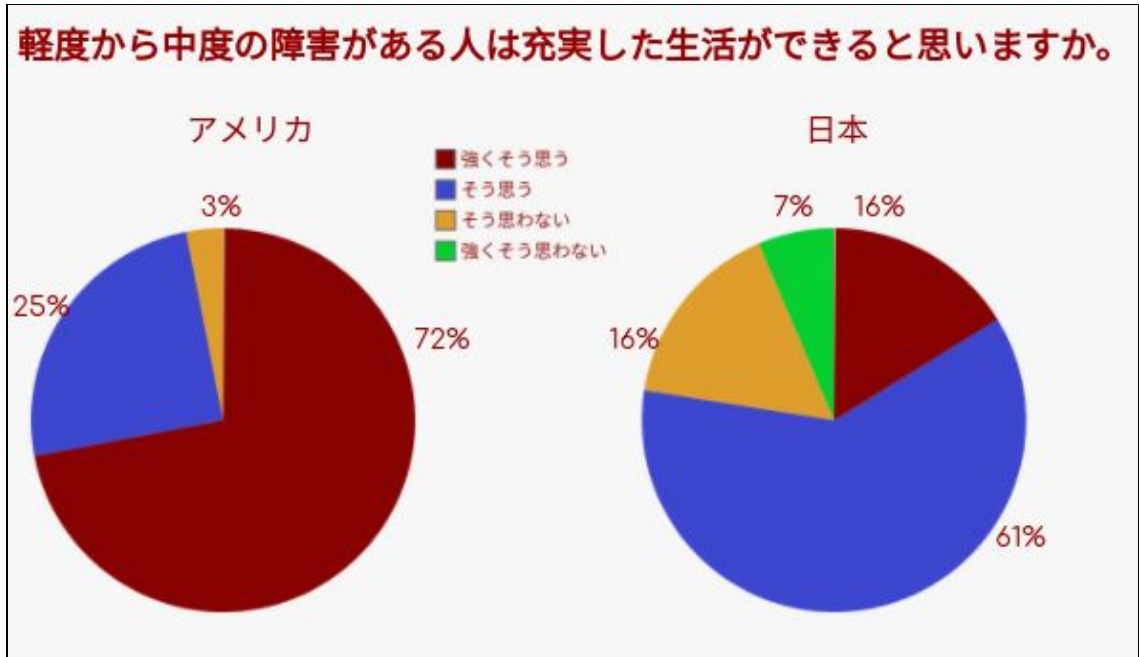


図 8 : 軽度から中度の障害がある人は充実した生活ができますか。

軽度から中度の障害がある人は充実した生活ができるかという質問には両国の学生のほとんどのが障害がある人は充実した生活ができていると思っているが、否定的な答えも日本人にはあった（図 8 参照）。

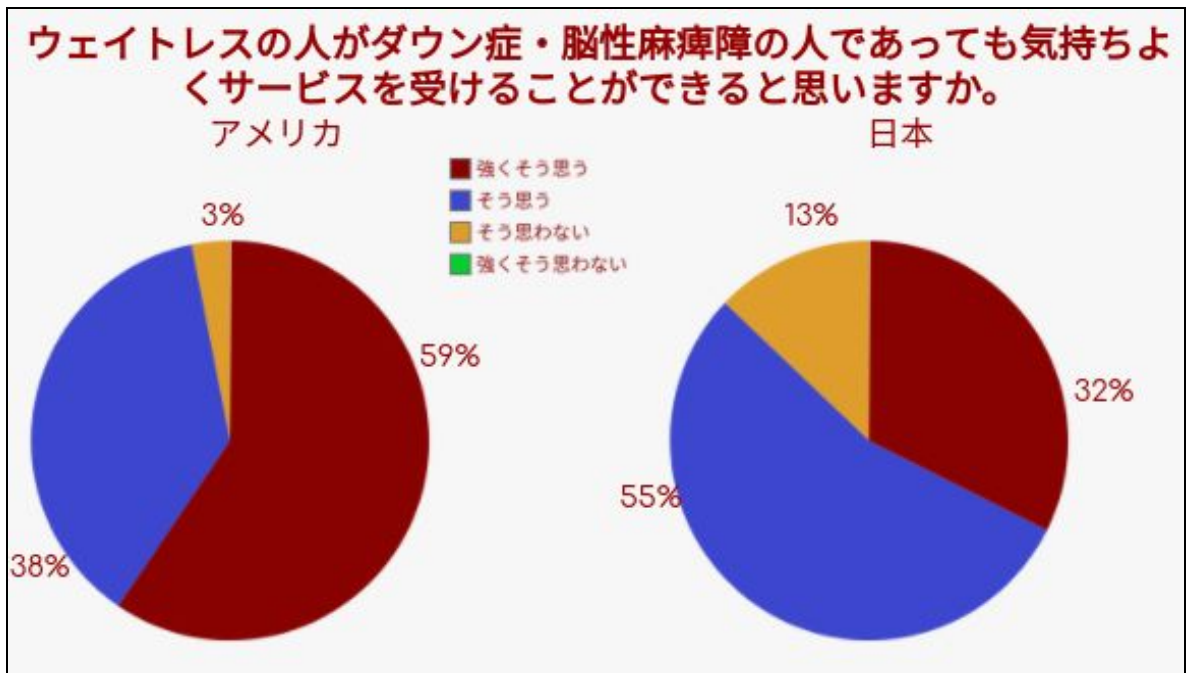


図9：ウェイトレスの人がダウン症・脳性麻痺障の人であっても気持ちよくサービスを受けることができますか。

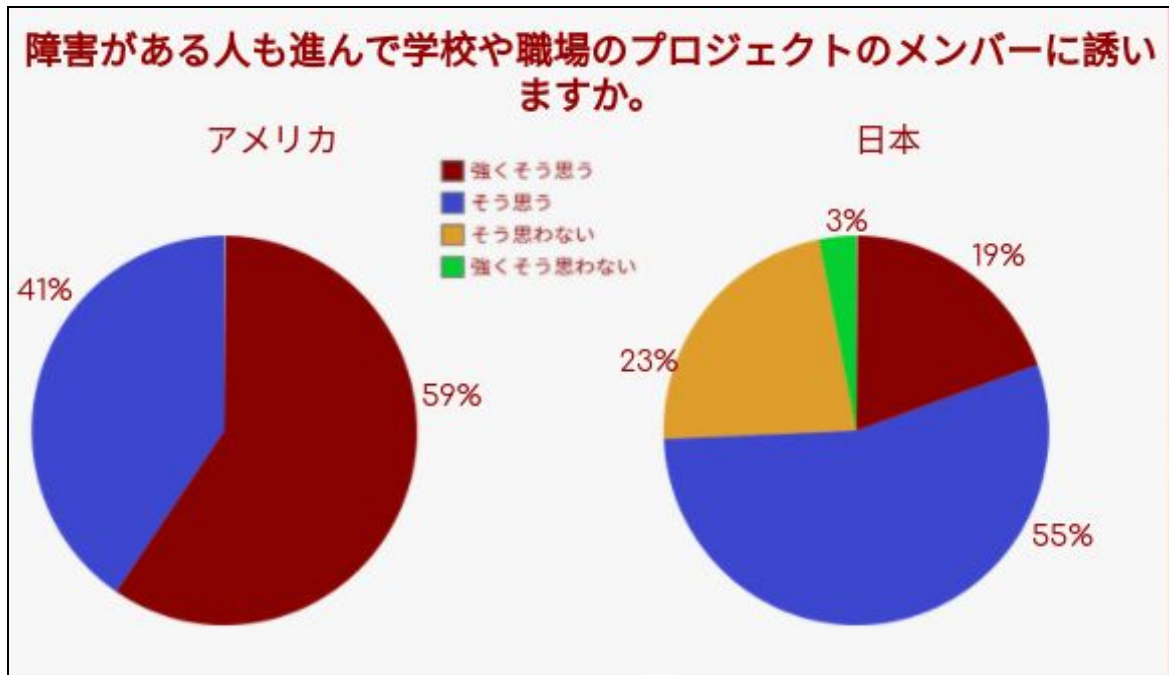


図10：障害がある人も進んで学校や職場のプロジェクトのメンバーに誘いますか。

ウェイトレスの人がダウン症・脳性麻痺障の人であっても気持ちよくサービスを受けることができますかという質問に対しては図9からわかるように両国とも「ダウン症・脳性麻痺障の人であっても気持ちよくサービス」を受けると思う人は92%を占めている。また障害がある人も進んで学校や職場のプロジェクトのメンバーに誘うかという質問には両国の学生は障害がある人も進んで学校や職場のプロジェクトのメンバーに誘うという回答だったが、アメリカの学生の方が強くそう思うと答えて数が59%そしてそう思うと答えた学生が41%と非常に高いのに比べ、日本の学生の場合は74%が誘うと答えている一方誘わないと思うと答えた人は26%いた（図10参照）。

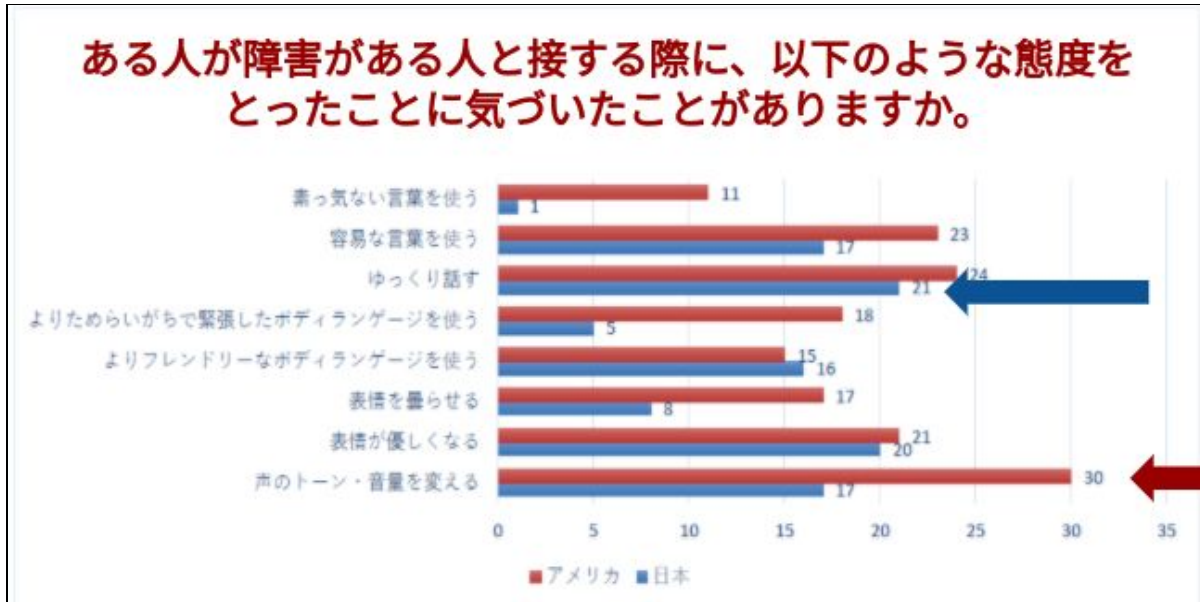


図 1 1 : ある人が障害がある人と接する際に、以下のような態度をとったことに気づいたことがありますか。

ある人が障害がある人と接する際に、どのような態度をとったことに気づいたことがあるかという質問にはいくつか例をあげて聞いてみた。図 1 1 からわかるように両国ともは障害者と接するさい行動を変えるが、アメリカでは「声のトーン・音量を変える」人が多いのに対し、日本では「ゆっくり話す」が多いようであった。

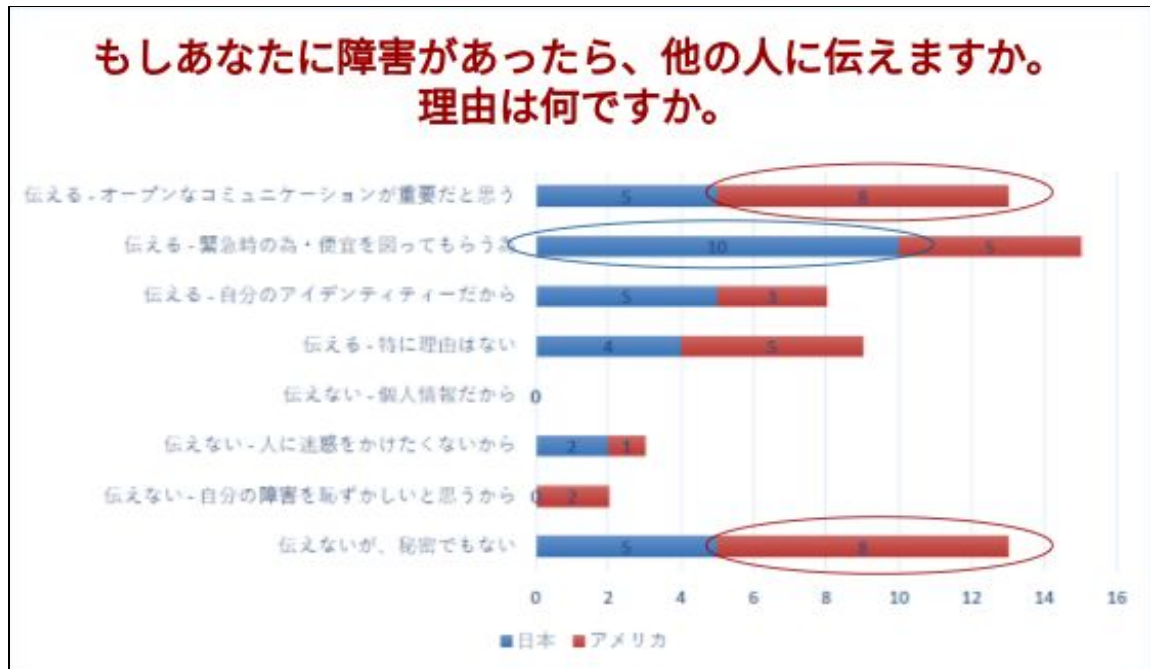


図 1 2 : もしあなたに障害があったら、他の人に伝えますか。理由は何ですか。

もしあなたに障害があったら、他の人に伝えるか、その理由は何かと訪ねたところ、図 1 2 に示されているようににアメリカ人は「オープンなコミュニケーション」や「誠実」は大事だと思うと答える人が多かったので、日本人は「緊急時の為」や「便宜を図って」は大事だと思うと答える人が多かったのであった。

5.1.1: 研究質問 1 の結果

アメリカ人は障害がある人の能力とない人の能力が同じだと思っている。さらにアメリカ人は日本人よりも障害がある人との経験や病気についての知識があることがわかった。アメリカ人は精神疾患を障害だとみなしているが、日本人はそうではないとも明らかになった。また、日本人は必要がない限り、他人の障害について話題にしない方がいいと考えている。また、安全上の理由を除いて自分自身の障害についても話さない方がいいと思っていることも分かった。日本人は、障害についての経験や知識が少ないため、障害がある人は自分自身の障害について話すべきではないと考えていたり、精神疾患や糖尿病は障害とは思っていないのかもしれない。

5.2: 研究質問 2 : 現在障害がある人が利用可能な設備や施設についてどの程度理解しているか。

この研究質問に対し、研究質問 1 と同様にいくつかの質問をした。はじめの 2 つ質問は学校のとときには障害の学んだことを伺う。次に、「強くそう思う」から「強くそう思わない」のスケールで回答者に答えてもらった。

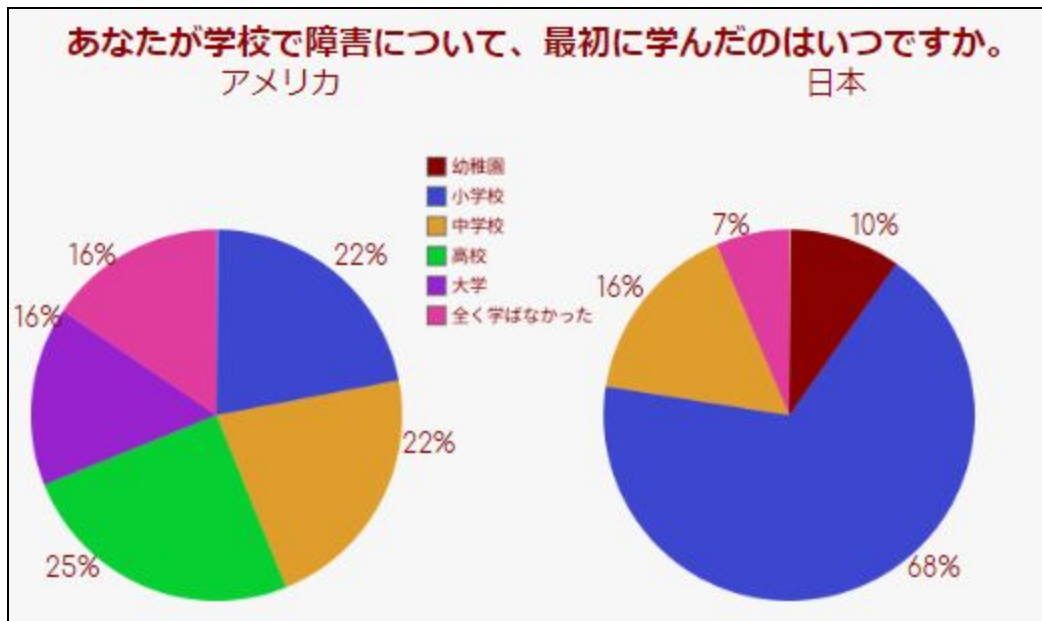


図13 : あなたが学校で障害について、最初に学んだのはいつですか。

その結果、図 1 3 からわかるようにあなたが学校で障害について、最初に学んだのはいつですかという質問に対して日本人の 6 8 % が小学校で学んでいるが、アメリカの場合は幼稚園から大学までとすべての学年にわかれた。

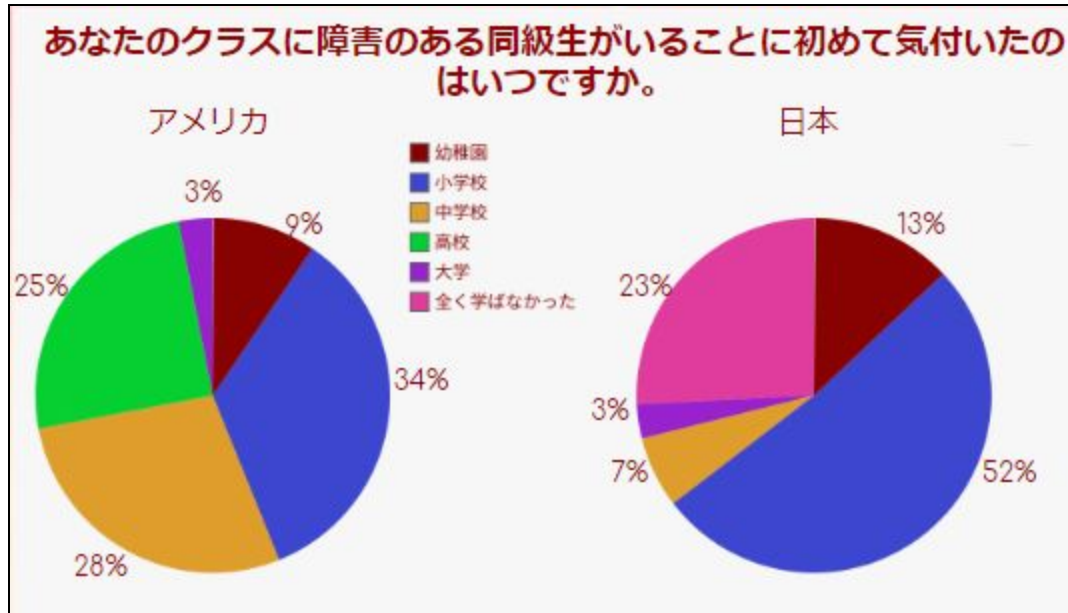


図14：あなたのクラスに障害のある同級生がいることに初めて気付いたのはいつですか。あなたが学校で障害について、最初に学んだのはいつですか。

いくつかのあなたのクラスに障害のある同級生がいることに初めて気付いたのはいつですかという質問に対して、日本人の52%が小学校に於いて学んでいたがアメリカの場合は幼稚園から大学までとすべての学年にわかれた（図14参照）。

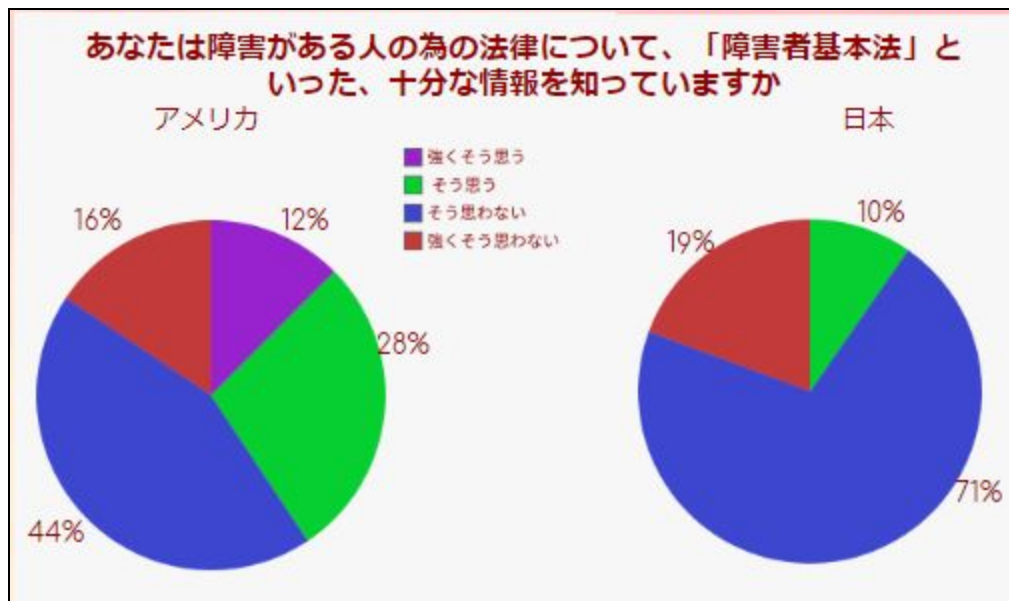


図15：あなたは障害がある人の為の法律について、「障害者基本法」といった、十分な情報を知っていますか。

あなたは、「障害者基本法」に関して十分な情報を知っていますかという質問に対して、図15からわかるように両国の大学生は障害がある人の為のこの法律を十分に知らないと答えた。

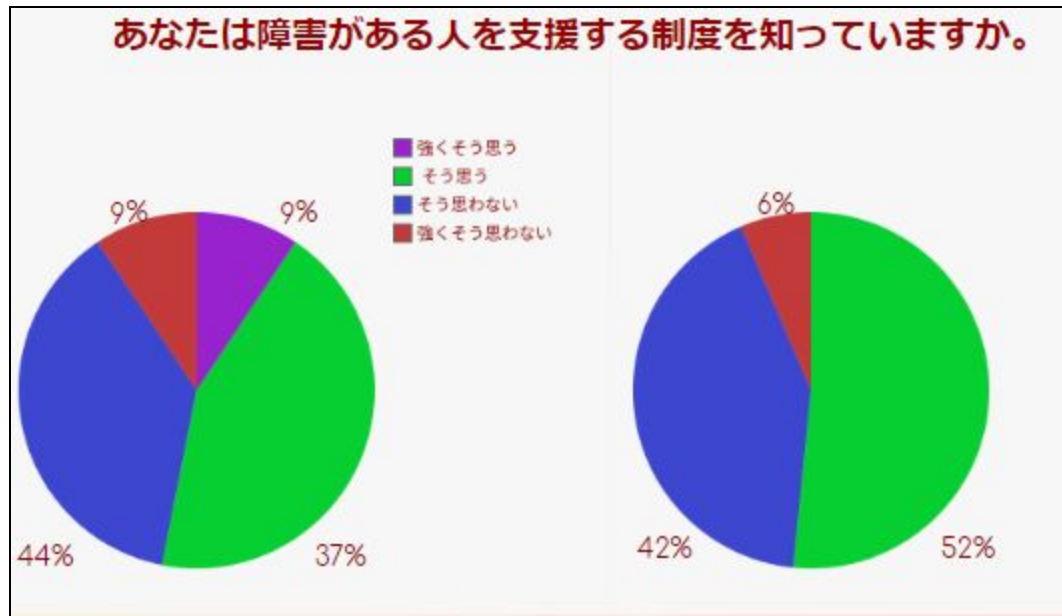


図16：あなたは障害がある人を支援する制度を知っていますか。

あなたは障害がある人を支援する制度を知っているかどうかという質問には両国の回答者は知っている人と知らない人と半分に分かれた（図16参照）。

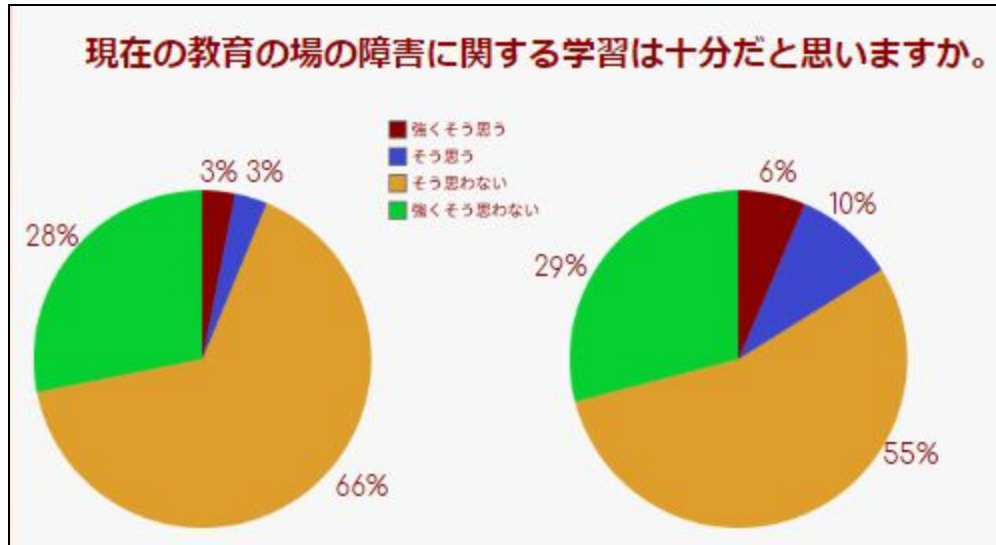


図17：現在の教育の場の障害に関する学習は十分だと思いますか。

いくつかの現在の教育の場の障害に関する学習は十分だと思いますか聞いたところ、両国の回答は似ているが、より多くのアメリカ人は障害に関する学習が不十分であると答えた（図17参照）。

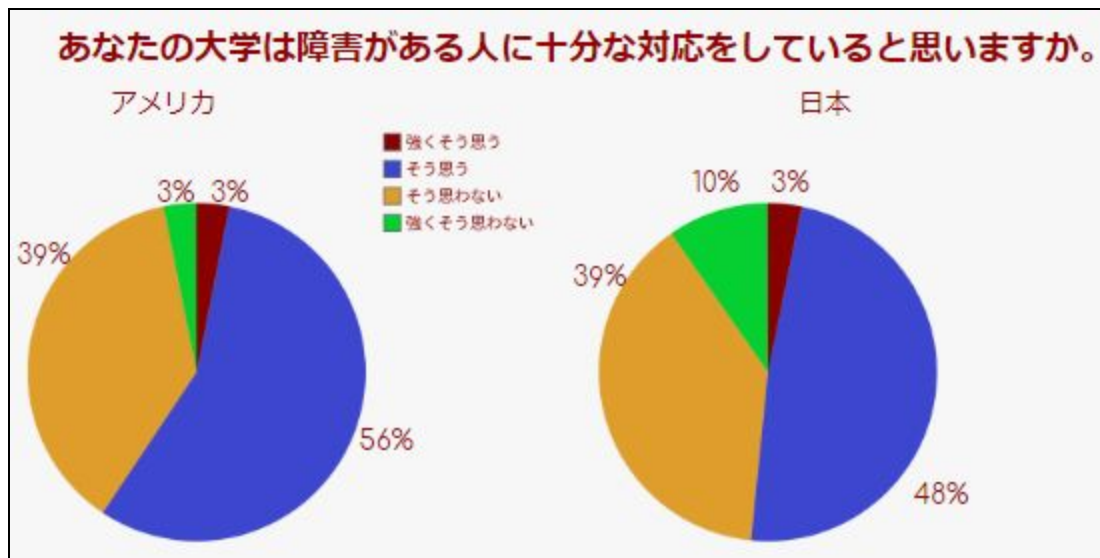


図18：あなたの大学は障害がある人に十分な対応をしていると思いますか。

あなたの大学は障害がある人に十分な対応をしていると思いますかという質問に対して図18に示されているように両国とも大学での障害がある人に対する対応は十分としているとしていないとする見解に分かれた。

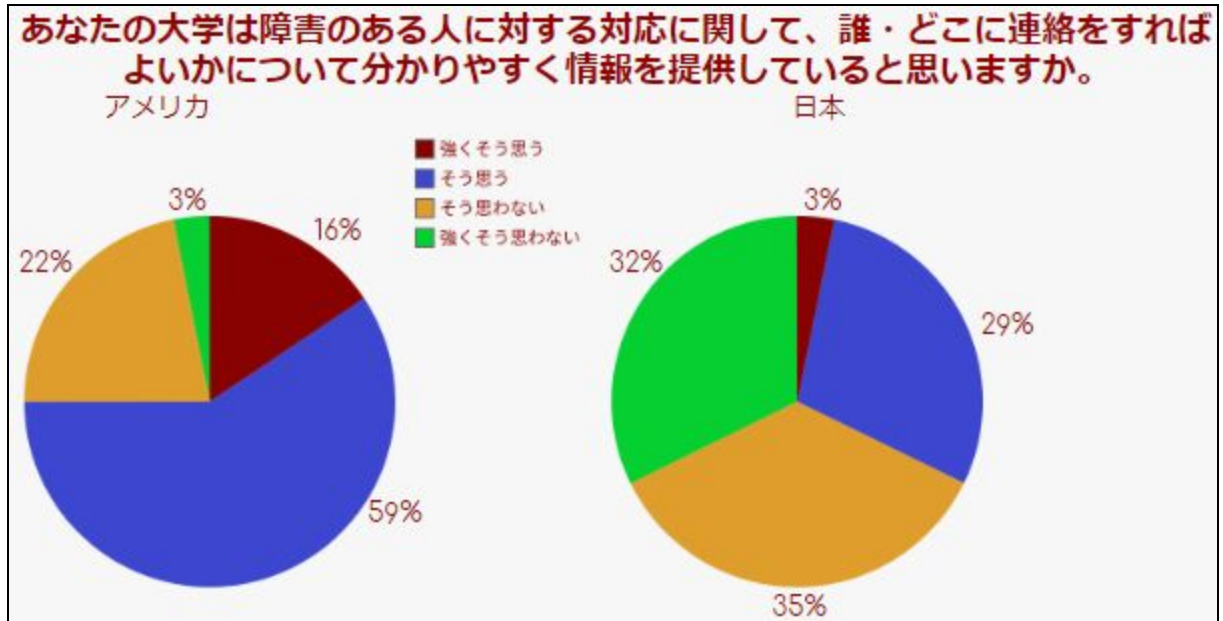


図19：あなたの大学は障害のある人に対する対応に関して、誰・どこに連絡をすればよいかについて分かりやすく情報を提供していると思いますか。

あなたの大学は障害のある人に対する対応に関して、誰・どこに連絡をすればよいかについて分かりやすく情報を提供していると思いますかという質問にはアメリカの大学生は誰に連絡をすれば良いか知っていたが、日本人の大学生は知らないと回答した。アメリカ人の回答者が強くそう思うとそう思うと答えて数が75%そして強くそう思わないとそう思わないと答えて数が25%であった。日本人の回答者が強くそう思うとそう思うと答えて数が32%そして強くそう思わないとそう思わないと答えて数が67%であった（図19参照）。

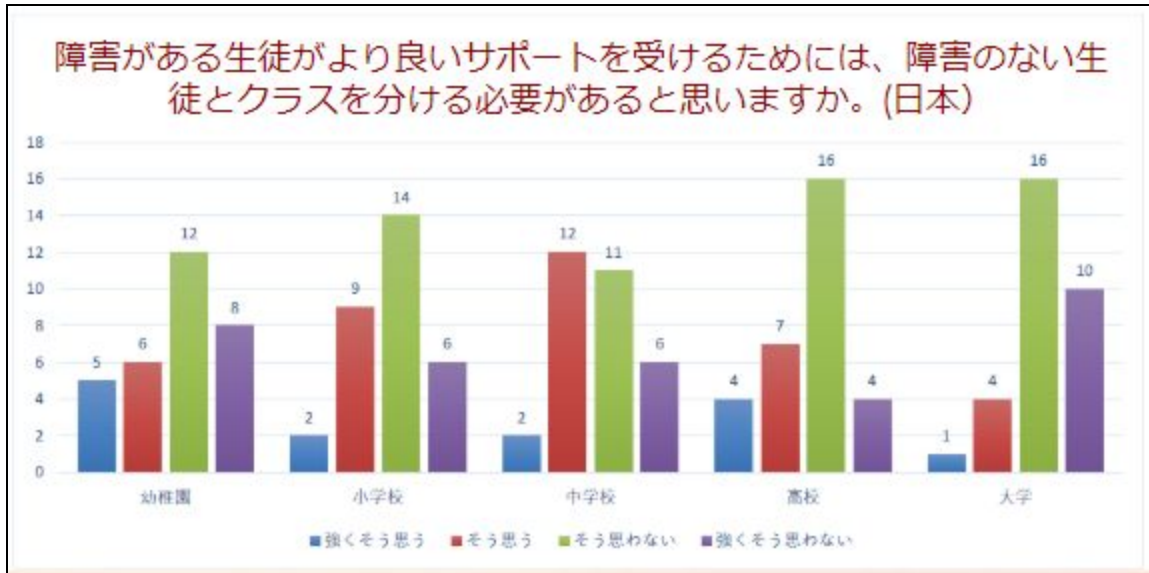


図20：障害がある生徒がより良いサポートを受けるためには、障害のない生徒とクラスを分ける必要があると思いますか。(日本)

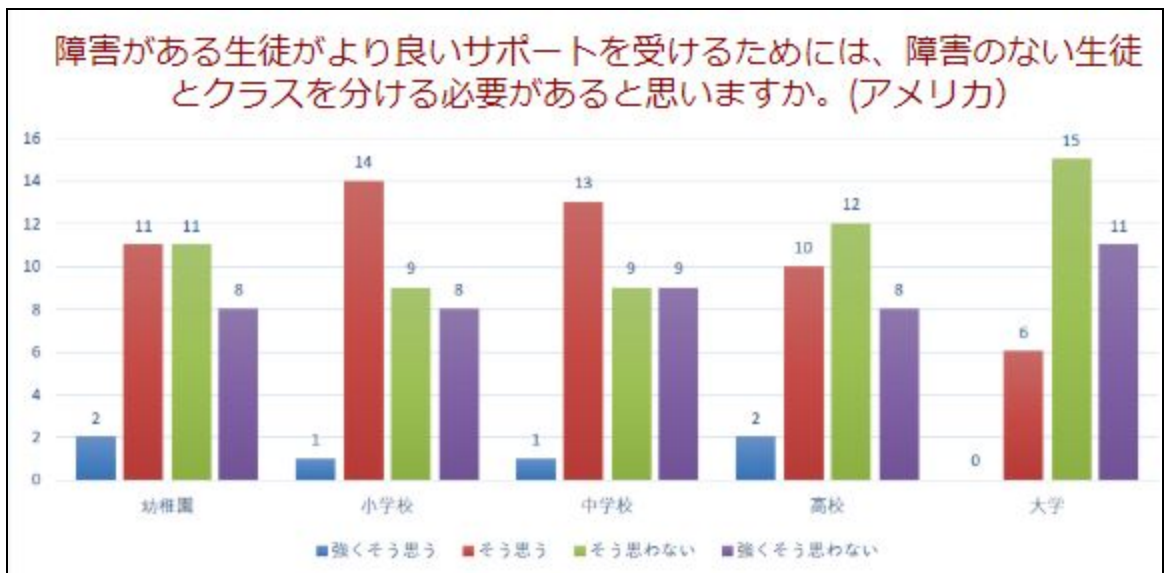


図21：障害がある生徒がより良いサポートを受けるためには、障害のない生徒とクラスを分ける必要があると思いますか。(アメリカ)

障害がある生徒がより良いサポートを受けるためには、障害のない生徒とクラスを分ける必要があると思いますかという質問に対して日本人の大学生は分ける必要がないと答え（図20参照）、一方で図21に示されているようにアメリカの学生はその反対で

アメリカ人の大学生は障害がある生徒とない生徒がクラスを分ける必要があると答え、日本はアメリカと意見が異なった。

5.2.1: 研究質問2の結果

アメリカ人は日本人よりも障害について意識が高いことがわかった。また、アメリカ人は学校で、継続的に障害に関する教育を受けているすが、日本の場合は小学校で教育を受けるだけ。しかし、どちらの国の学生も障害に関する教育は不十分で、また、アメリカ人は障害がある生徒を分けるべきだと答えましたが日本人は分けない方がいいと答えた。さらに、アメリカ人も日本人も、障害がある人の為の法律についてはあまりよくしらず、アメリカ人ははっきりと誰に連絡をすれば良いか知っている一方、日本人はよくわかっていない。両国とも大学での障害がある人に対する対応は十分としているとしていないとする見解が分かれた。

6. 結論

日本人は精神疾患を障害とは考えていないので、この事が障害を論じるべきではないという考え方と、関連しているのではないか、と思う。精神疾患を恥とみなす社会通念かもしれない。日本人は小学生の時に障害について正式な教育を受けるが、その後は障害に対する教育は行われぬ。このため障害に対する意識は次第に衰える。アメリカ人は、特殊教育の徹底により、障害がある生徒を障害がない生徒からわけても問題ないと考えている。アメリカ人は日常的に障害がある人と接する経験があり、特定の障害についてもより多くの知識をもっている。

7. 研究の限界点と将来の研究課題

研究の限界点として、参加者が少なく、この結果は一般化することはできない。将来の課題としては他の障害に関してもっとしらべたいと思う。さらにアメリカでは障害がある生徒とない生徒とクラスを分けるか必要があるという認識が強いですがその理由をさらに追求したいと思う。

参考文献

- Academic Accommodations. (2020). Retrieved from <https://csumb.edu/sdr/academic-accommodations>
- ADA AMENDMENTS ACT OF 2008. (2008, September 25). Retrieved from <https://www.eeoc.gov/laws/statutes/adaaa.cfm>
- Christensen, D., Braun, K. V. N., Doernberg, N. S., Maenner, M. J., Arneson, C. L., Durkin, M. S., ... Yeargin-Allsopp, M. (2013, October 1). Prevalence of cerebral palsy, co-occurring autism Spectrum disorders, and motor functioning – Autism and Developmental Disabilities Monitoring Network, USA, 2008. Retrieved from <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/dmcn.12268>
- Down Syndrome Facts: National Down Syndrome Society. (2020). Retrieved from <https://www.ndss.org/about-down-syndrome/down-syndrome-facts/>
- Dyslexia. (2017, July 22). Retrieved from <https://www.mayoclinic.org/diseases-conditions/dyslexia/symptoms-causes/syc-20353552>
- Dyslexia: What Brain Research Reveals About Reading. (2004). Retrieved from <http://www.ldonline.org/article/10784/>
- FAQ. (2020). Retrieved from <https://www.npo-edge.jp/educate/faq/>
- How do you define invisible disability?: invisible disability definition. (2017). Retrieved from <https://invisibledisabilities.org/what-is-an-invisible-disability/>.
- IDF Western Pacific members. (2020, March 10). Retrieved from <https://idf.org/our-network/regions-members/western-pacific/members/105-japan.html>
- Invisible Vs. Visible Disabilities: 24 Hour Home Care. (2018, March 6). Retrieved from <https://www.24hrcare.com/14581-2/>
- Requesting Accommodations. (2020). Retrieved from <https://csumb.edu/sdr/requesting-accommodations>
- Statistics About Diabetes. (2018). Retrieved from <https://www.diabetes.org/resources/statistics/statistics-about-diabetes>
- Toyokawa, S., Maeda, E. and Kobayashi, Y. (2017), Estimation of the number of children with cerebral palsy using nationwide health insurance claims data in Japan. *Dev Med Child Neurol*, 59: 317-321. doi:10.1111/dmcn.13278
- What is Cerebral Palsy? (2019, April 30). Retrieved from <https://www.cdc.gov/ncbddd/cp/facts.html>
- What is Diabetes? (2016, December 1). Retrieved from <https://www.niddk.nih.gov/health-information/diabetes/overview/what-is-diabetes>
- What is Down Syndrome?: National Down Syndrome Society. (2020). Retrieved from <https://www.ndss.org/about-down-syndrome/down-syndrome/>

ダウン症児出生数は横ばい傾向、高年妊娠増加も出生前診断の普及が影響か—成育医療センター | Web 医事新報: 日本医事新報社. (2019, August 20). Retrieved from <https://www.jmedj.co.jp/journal/paper/detail.php?id=12927>

学修支援. (2020). Retrieved from <https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/support/support3/>

健康相談・精神保健相談・禁煙支援 | 同志社大学 保健センター. (2020). Retrieved from <https://health.doshisha.ac.jp/consultation/consultation.html>

おしえて！障害のこと - ATARIMAEプロジェクト. (2020). Retrieved from <http://www.atarimae.jp/oshiete/2008/09/post-31.html>

精神障害とは | 株式会社FVP. (2020). Retrieved from <http://company.fvp.co.jp/glossary/detail05/>

身体障害とは？定義や症状の種類、身体障害者手帳などのサービスについて説明します。 (2019, October 23). Retrieved from <https://snabi.jp/article/210#9bj20>

障害のある方へ. (2020). Retrieved from <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/service/syougaisya-service#shisetsu>

障害者基本法:障害者施策—内閣府. (2004). Retrieved March 3, 2020, from <https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kihonhou/s45-84.html>